

日本地質学会 *News*  
Vol.23 No.2 February 2020



# 一般社団法人日本地質学会

## The Geological Society of Japan

### 理事

任期：2018年5月19日～2020年総会

会長（代表理事）	松田博貴（熊本大学）	狩野彰宏（東京大学）
		神谷奈々（京都大学）
副会長	佐々木和彦（応用地質（株））	亀尾浩司（千葉大学）
	平田大二（神奈川県立生命の星・地球博）	亀田 純（北海道大学）
常務理事	齋藤 真（産業技術総合研究所）	川端清司（大阪市立自然史博物館）
副常務理事	安藤寿男（茨城大学）	北村有迅（鹿児島大学）
執行理事	磯崎行雄（東京大学）	小松原純子（産業技術総合研究所）
	ウォリス サイモン（東京大学）	沢田 健（北海道大学）
	岡田 誠（茨城大学）	菅浦幸男（応用地質(株)）
	緒方信一（中央開発（株））	菅沼悠介（国立極地研究所）
	大藤 茂（富山大学）	杉田律子（科学警察研究所）
	小宮 剛（東京大学）	高嶋 洋（野田市役所）
	坂口有人（山口大学）	竹内 誠（名古屋大学）
	田村芳彦（海洋研究開発機構）	竹下 徹（北海道大学）
	辻森 樹（東北大学）	田村嘉之（千葉県環境財団）
	中澤 努（産業技術総合研究所）	奈良正和（高知大学）
	西 弘嗣（東北大学）	楡井 久（NPO 法人日本地質汚染審査機構）
	廣木義久（大阪教育大学）	早坂康隆（広島大学）
	星 博幸（愛知教育大）	福富幹男（地技研）
理事	天野一男（日本大学）	保柳康一（信州大学）
	石橋 隆（益富地学会館）	三田村宗樹（大阪市立大学）
	井龍康文（東北大学）	道林克禎（名古屋大学）
	岩井雅夫（高知大学海洋コア総合研究センター）	矢島道子（日本大学）
	折橋裕二（弘前大学）	山口耕生（東邦大学）
	笠間友博（神奈川県立生命の星・地球博物館）	山崎晴雄（なし）
		山路 敦（京都大学）

### 監事

任期：2016年5月21日～2020年総会

藤本光一郎（東京学芸大学）  
山本正司（山本司法書士事務所）



一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15 井桁ビル

電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156 (振替口座 00140-8-28067)

e-mail: main@geosociety.jp ホームページ <http://geosociety.jp>

# 日本地質学会 *News*

Vol.23 No.2 February 2020

The Geological Society of Japan News

一般社団法人日本地質学会

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル 6F

編集委員長 小宮 剛

TEL 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156

main@geosociety.jp (庶務一般)

journal@geosociety.jp (編集)

http://www.geosociety.jp

## Contents

一般社団法人日本地質学会理事および監事選挙について……2

案内……3

地区防災計画学会第6回大会

各賞・研究助成……3

第17回(2020年度)「日本学術振興会賞」受賞候補者推薦/コスモス国際賞受賞候補者推薦依頼/国土地理協会2020年度学術研究助成

公募……4

ふじのくに地球環境史ミュージアム職員(研究員:地質・岩石・地震分野)の公募

訃報……4

紹介……5

基礎地球科学・第3版 西村佑二郎ほか 著(高橋正樹)/地質学者ナウマン伝 矢島道子 著(木村 学)

紹介 アニメ「恋する小惑星」……7

「恋する小惑星」を応援しよう!(星 博幸)/地質標本館は「恋する」を応援しています(森田澄人)

事務局からのお願い:会員情報に変更があった場合は、……7

「GSSPシンポジウム:国際層序の意味と意義」報告(石渡 明ほか)……8

院生コーナー……10

第18回地球惑星科学NYS若手合宿 参加報告(多田賢弘)

支部コーナー……11

関東支部:2020年度総会・地質技術伝承講演会開催のお知らせ

2020年度学部学生割引・院生割引会費受付中……12

追悼 鳥津光夫先生の急逝を悼む(立石雅昭)……13

入会申込書……14

巻末 会費口座振替依頼書

表3 CALENDAR

印刷・製本:日本印刷株式会社 東京都豊島区東池袋4-41-24

2020名古屋大会

トピックセッション募集中

締切:2020年3月10日(火)

詳しくは、ニュース誌1月号または学会HPをご参照ください。

表紙写真

## 沖縄南端部隆起珊瑚礁

写真:清川昌一(九州大学)

### 事務局営業カレンダー

営業時間:9:30から18:00まで

2月 February

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

3月 March

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

お休み

# 一般社団法人日本地質学会理事および監事選挙について

2020年2月13日  
一般社団法人日本地質学会  
選挙管理委員会 委員長 飛田健二

2月10日に役員の立候補が締め切られました。選挙管理委員会で確認した理事および監事の立候補者名簿は次のとおりです。

## 1. 理事選挙

選挙規則、選挙細則に基づき2020年度の理事選挙を2月21日（金）～3月6日（金）まで実施いたします。理事選挙は2020年度からの新代議員による投票となります。

選挙規則に定められた理事の選挙定数50名のうち、全国区代議員から55名の立候補者（定数43名）と近畿支部区代議員からの2名の立候補者（一つの支部区から1名ずつの定数）は、定数を超えましたので、選挙規則第5条、選挙細則第13条、第17条に則り、理事選挙を行います。

各地方支部区から選出する7名の理事のうち、5地方支部区（北海道、東北、中部、四国、西日本）代議員からの5名の理事立候補者は、それぞれの定数を超えませんでしたので、選挙規則第6条に則り無投票当選となります。

理事選挙の開票は3月11日（水）15時から学会事務局で行います。開票の立ち会いをご希望のかたは、3月9日（月）までに選挙管理委員会（main@geosociety.jp）にお申し出ください。

### 理事候補者名簿（任期2年：2020年総会后～2022年総会） 全国区代議員（定数43名）

立候補者名	所属機関名
1 松田 博貴	熊本大学
2 矢島 道子	日本大学
3 天野 一男	東京大学空間情報科学研究センター
4 清川 昌一	九州大学
5 小松原純子	産業技術総合研究所
6 斎藤 眞	産業技術総合研究所
7 田村 嘉之	（一財）千葉県環境財団
8 辻森 樹	東北大学東北アジア研究センター
9 西 弘嗣	東北大学学術資源研究公開センター
10 松田 達生	（株）工学気象研究所
11 安藤 寿男	茨城大学
12 石橋 隆	（公財）益富地学会館
13 磯崎 行雄	東京大学
14 ウォリス サイモン	東京大学
15 岡田 誠	茨城大学
16 小宮 剛	東京大学
17 佐々木和彦	応用地質（株）
18 内藤 一樹	産業技術総合研究所
19 緒方 信一	中央開発（株）
20 折橋 裕二	弘前大学
21 笠間 友博	箱根町立箱根ジオミュージアム
22 川端 清司	大阪市立自然史博物館
23 高嶋 礼詩	東北大学学術資源研究公開センター
24 竹下 徹	北海道大学
25 平田 大二	神奈川県立生命の星・地球博物館
26 松田 義章	NPO 法人北海道総合地質学研究センター
27 内野 隆之	産業技術総合研究所
28 北村 有迅	鹿児島大学
29 杉田 律子	科学警察研究所
30 野田 篤	産業技術総合研究所

31 藤井 正博	応用地質（株）
32 山口 飛鳥	東京大学大気海洋研究所
33 狩野 彰宏	東京大学
34 保柳 康一	信州大学
35 山口 耕生	東邦大学
36 山田 泰広	海洋研究開発機構
37 加藤 猛士	川崎地質（株）
38 細矢 卓志	中央開発（株）
39 市川八州夫	応用地質（株）
40 澤口 隆	東洋大学
41 星 博幸	愛知教育大学
42 中澤 努	産業技術総合研究所
43 川辺 文久	文部科学省
44 亀高 正男	（株）ダイヤコンサルタント
45 後藤 和久	東京大学
46 坂口 有人	山口大学
47 納谷 友規	産業技術総合研究所
48 上松佐知子	筑波大学
49 芦 寿一郎	東京大学
50 内尾 優子	国立科学博物館
51 大藤 茂	富山大学
52 尾上 哲治	九州大学
53 亀尾 浩司	千葉大学
54 鈴木 寿志	大谷大学
55 矢部 淳	国立科学博物館

### 地方支部区代議員 定数7名（各地方支部区から1名ずつ）

※近畿支部区（★）は理事選挙を行います。他の地方支部区は定数内につき無投票当選となり投票はありません。

※選挙人：近畿支部区当選代議員／被選挙人（★）：近畿支部区当選代議員

支部区名	候補者番号	立候補者名	所属機関名
北海道	1	亀田 純	北海道大学
東北	1	根本 直樹	弘前大学
関東		立候補者なし	
中部	1	道林 克禎	名古屋大学

近畿★	1	三田村宗樹	大阪市立大学
	2	里口 保文	滋賀県立琵琶湖博物館

四国	1	奈良 正和	高知大学
西日本	1	早坂 康隆	広島大学

## 2. 監事選挙

監事については会員から1名、理事会推薦から1名、計2名の立候補届出がありましたが、会員からの候補者は定数内のため、監事の投票は行いません。

### 監事候補者名簿（任期4年：2020年総会后～2024年総会）

立候補者名	所属機関名（会員・非会員の別）
1 岩部 良子	応用地質（株）（会員）
2 山本 正司	司法書士山本正司事務所（非会員）



## ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します。

### 地区防災計画学会第6回大会

#### 一阪神・淡路大震災から25年 大震災の教訓と地区防災計画

今年、阪神・淡路大震災から25年の節目の年にあたることから、阪神・淡路大震災の教訓を生かした防災教育を行ってきた兵庫県立大学神戸防災キャンパス（人と防災未来センター東館）で開催します。

主催 地区防災計画学会、兵庫県立大学減災復興政策研究科

共催 情報通信学会災害情報法研究会、協力（一財）関西情報センター

日時 2020年3月7日（土）9:30～17:30予定  
場所 兵庫県立大学神戸防災キャンパス 人と防災未来センター

対象 地域防災力の強化や地区防災計画づくりに興味のある方（定員150名・事前申込制・定員に達した場合は申込締切）

参加費 無料（ただし、梗概集は有料）

申込 地区防災計画学会HPで申込受付  
<https://gakkai.chiku-bousai.jp/ev200307.html>

プログラム

【主な個人報告者（順不同・計36テーマを予定）】

矢守克也 京都大学防災研究所教授

加藤孝明 東京大学生産技術研究所教授/社会科学研究所特任教授

渥美公秀 大阪大学大学院人間科学研究科教授

鍵屋 一 跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部教授

鈴木猛康 山梨大学地域防災・マネジメント研究センター長

川脇康生 関西国際大学経営学部教授

田中隆文 名古屋大学大学院生命農学研究科准教授

阪本真由美 兵庫県立大学減災復興政策研究科准教授

磯打千雅子 香川大学IECMS地域強靱化研究センター准教授

小山真紀 岐阜大学流域圏科学研究センター准教授

林 秀弥 名古屋大学法学研究科教授

近藤誠司 関西大学社会安全学部准教授

澤田雅浩 兵庫県立大学減災復興政策研究科准教授

生田英輔 大阪市立大学都市防災教育研究センター副所長

竹之内健介 京都大学防災研究所特定准教授

西澤雅道 前福岡大学法学部准教授（内閣官房企画調整官）ほか

【シンポジウム① 阪神・淡路大震災から25年、神戸の減災復興のいま】

登壇者 室崎益輝 地区防災計画学会会長

阪本真由美 兵庫県立大学准教授

澤田雅浩 兵庫県立大学准教授 ほか

【シンポジウム② 近年の大災害の教訓と地区防災計画（仮題）】

登壇者 矢守克也 京都大学教授

加藤孝明 東京大学教授

磯打千雅子 香川大学准教授 ほか

※詳細なプログラムは地区防災計画学会HPに順次アップされます。

<https://gakkai.chiku-bousai.jp/ev200307.html>

## 各賞・研究助成



日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します。

### 第17回（2020年度）「日本学術振興会賞」受賞候補者推薦

対象分野：人文学、社会科学及び自然科学にわたる全分野

授賞：授賞数は25名以内とし、受賞者には、賞状、賞牌及び副賞として研究奨励金110万円を贈呈します。なお、日本学士院により、日本学術振興会賞受賞者の中から日本学士院学術奨励賞受賞者が選考されます。

対象者：国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと思われる者のうち、2020年4月1日現在以下の1) から3) の条件を満たす者となります。また、これまでにご推薦いただいた候補者のうちの女性割合は極めて低いというのが現状です。女性候補者の積極的な推薦をお願いいたします。

1) 次のa) 又はb) を満たすこと。

a) 日本国籍を有する者（海外在住の日本国籍を有する研究者を含む）

b) 外国人であって推薦時点において我が国で5年以上研究者として大学等研究機関に所属しており、今後も継続して我が国で研究活動を予定している者

2) 45歳未満であること

3) 博士の学位を取得していること（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含む）

※：過去に推薦されたことがある者であっても、推薦することができます。

※：推薦は2年間有効としているため、第16回（2019年度）に推薦された候補者のうち2020年4月1日現在で45歳未満である候補者に

ついては今回推薦がない場合でも今回の審査の対象となります（キャリアオーバー）。なお、第16回（2019年度）に推薦された候補者が、その後の研究活動により新たな研究業績を重ねていると思われる場合については、改めて推薦されることをお勧めします。

推薦権者：

1) 機関長推薦 我が国の大学等研究機関又は学協会の長

2) 個人推薦 優れた研究実績を有する我が国の学術研究者（海外在住の日本国籍を有する学術研究者を含む）

※自薦は受け付けません。

※学会からの推薦を希望される方は、3月23日（月）までに必要書類をそろえて、学会事務局までお申し出下さい。

受付期間：2020年4月1日（水）～4月6日（月）17:00（必着）

問い合わせ先：

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3-1

独立行政法人 日本学術振興会

人材育成事業部 研究者養成課「日本学術振興会賞」担当

TEL 03-3263-0912 FAX 03-3222-1986

<https://www.jsps.go.jp/jsps-prize/index.html>

### コスモス国際賞受賞候補者推薦依頼

1. 授賞の対象

花と緑に象徴される地球上のすべての生命体の相互関係およびこれらの生命体と地球との相互依存、相互作用に関し、地球的視点からその変化と多様性の中にある関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や業績であって、「自然と人間との共生」という理念の形成発展にたくに寄与すると認められるもの。

上記の観点から、以下の点を重視する。

1. 分析的、還元的方法ではなく、包括的、統合的な方法による業績であること。

2. 地球的視点にたった業績であること。特定の地域や個別の現象に関するものであっても、普遍性があること。

3. 直接的な問題解決型ではなく、長期的な視野をもつ業績であること。

2. 受賞者の選考

コスモス国際賞委員会を設け、当該委員会に選考専門委員会を置く。

選考専門委員会は国内外からの推薦による候補者の業績を審査し、受賞候補者を選考する。国際賞委員会はこれに基づいて受賞者を決定する。

3. 受賞者の資格

国籍、人種、性別、信条を問わない。ただし、現存者に限る。推薦人は自薦は不可。

4. 賞の内容

毎年、原則として1個人または1グループを表彰する。受賞者には、賞状、賞牌及び副賞

(4,000万円)を贈る。

**推薦締切：2020年4月10日（金）必着（学会締切：3月27日（金））**

問い合わせ先：

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2-136 花博記念協会内 コスモス国際賞委員会事務局  
電話：06-6915-4513 FAX：06-6915-4524  
メール：rec-cosmos@expo-cosmos.or.jp  
<https://www.expo-cosmos.or.jp/main/cosmos/>

## 国土地理協会 2020年度学術研究助成

助成対象となる調査・研究について

①地理学および関連する分野の学術的調査・研究

②地図・地名に関する学術的調査・研究

③地理・地図・環境等に関する教育・普及を目的とした研究および活動

助成の対象となる方について

大学院博士課程を修了し、もしくは同等以上の能力と研究経験を有し、大学その他の教育機関や研究機関・博物館・図書館等に在職（または在学）して調査・研究に従事している、個人または研究グループ。なお、これらの機関で常勤の職に就いている者に限って、助成を申請する代表者となることができます。（大学院在学の場合は、指導教官等）

助成金額について

対象①、②に関しては1件につき100万円を限度とする申請額。対象③に関しては1件につき50万円を限度とする申請額。審査の結果、申請額から減額して助成する場合があります。

必ずしも調査・研究とは直接的に関係しない、日常的に使用する機器類等の費用や研究者として自己負担するのが適当と思われる費用（パソコンおよび一般的な周辺機器・PCソフトウェア、学会参加のための旅費や会費etc.）は、助成の対象としません。

支出費用（旅費、謝金等）については、詳細を申請書に明記して下さい。また、助成研究が完了しましたら「会計報告書」と、全支出の領収書（コピー可）を添付して定められた期日までに提出していただきます。

**申請の受付：2020年4月1日（水）～4月15日（水）必着**

審査結果の通知：2020年7月

助成金の交付：2020年9月

お問合せ先

（公財）国土地理協会 助成事業担当

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番1号

お問い合わせ：josei@kokudo.or.jp

<http://www.kokudo.or.jp/grant/index.html>

## 公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては、採用結果をお知らせいただけま  
すようお願い致します。



応募

## ふじのくに地球環境史 ミュージアム職員（研究員： 地質・岩石・地震分野）の公募

選考職種：研究職（教授・准教授・主任研究員・研究員）1名

専門分野：地質・岩石・地震

採用年月日：令和2年9月1日以降（応相談）  
勤務場所：ふじのくに地球環境史ミュージアム（静岡県駿河区大谷）

応募資格：（1）生年月日：昭和35年9月2日以降に生まれた人（2）学歴：博士学位を有する人

提出書類：（1）履歴書（2）研究業績目録（3）主要な著書、学術論文等

選考方法：

（1）第一次考査 令和2年5月中旬（予定）

書類審査

（2）第二次考査 令和2年6月上旬（予定）面接

受付方法：

**（1）受付期間 令和2年2月10日（月）～令和2年3月17日（火）**

（2）応募方法 郵送

その他：募集要項及び詳細は、ふじのくに地球環境史ミュージアムホームページ（[www.fujimu100.jp](http://www.fujimu100.jp)）からダウンロード下さい。

問い合わせ先：静岡県ふじのくに地球環境史ミュージアム

〒420-8017 静岡県駿河区大谷5762

電話番号 054-260-7843

Email：museum-kikaku@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページ [www.fujimu100.jp](http://www.fujimu100.jp)

## 訃報

本会の次の方々が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

**名誉会員** 猪郷久義（11月22日）  
島津光夫（11月26日）

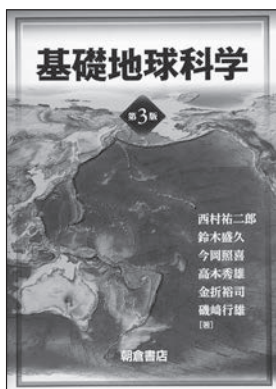
**正会員** 高橋昭紀（4月25日）  
塚田有一郎（7月17日）  
黒川勝己（9月7日）  
橘 彰一（10月1日）  
伊藤英之（12月4日）



## 紹介

### 基礎地球科学・第3版

西村佑二郎・鈴木盛久・今岡照喜・高木秀雄・金折裕司・磯崎行雄 著



朝倉書店 2019年8月発行, A5版, 212ページ, ISBN978-4-254-16074-1 C3044, 定価3,080円(税込)

本書は、この種の本では比較的良好なロングセラーである。総ページ数188pとコンパクトであるが情報は詰まっており、重要なポイントがよくまとめられている。評者の所属する大学の学科でも、一部の教科で教科書・参考書として活用されており、教科書としての条件をいろいろと備えた好著である。大きな章では、1.地球の概観、2.地球の構造、3.地球の物質、4.地球の変動と進化、5.地球の歴史、6.地球と人類の共生、となっている。ただし、この目次からも明らかなように、気象や海洋などの流体地球科学の内容は含まれておらず、正確には「基礎固体地球科学」とよぶべきかもしれない。

ところどころによく工夫された興味深い内容が含まれている。例えば、表1.7「地球表層でおこる諸現象の動きの速さ」などは大変に興味深い。これは横軸に地球表層で起きる諸現象の動きの速さ (cm/s) をとったもので、最もおそい現象として深海底の堆積速度、最も速い現象として地震波伝播速度が示されている。参考速度として日本の大地の上下変動、カタツムリの移動、歩く人、ジェット機などが挙げられている。地球表層部で生ずる諸現象を統一的な視点で俯瞰するのに大

変に役立つよいアイデアである。

各章の中では、5地球の歴史と6地球と人類の共生が、短いページ数の中で中身が濃く大変よくまとまっている。特に6章は、地球環境、資源、災害が一連の流れの中で語られていてユニークであり、「なるほどこういうまとめ方もあったか」と、感心するとともに勉強させていただいた。

一方、火成岩の専門家として不満な点もある。それは「3.地殻の物質」の章の「(3)火成岩の分類と命名法」の図3.11「火成岩の分類図」である。横軸にSiO<sub>2</sub>量と色指数をとったこうした図は、高校の地学教科書や地質学あるいは地球科学の概論のような入門的教科書ではよく使用されるものであるが、評者は日頃から問題が多いと考えている。深成岩と火山岩を対応させてあるが、深成岩と火山岩は厳密には対応が難しい。鉱物のモード組成の量比は深成岩には適用できるが、斑晶と石基からなる火山岩には適用するのは困難である。例えば、この図からいうと安山岩には角閃石が必ず含まれていなければならないが、第四紀の日本列島の安山岩の大部分は輝石安山岩であり角閃石は含まれない。また、全岩SiO<sub>2</sub>量と色指数を対応させているが、深成岩であっても両者は必ずしも対応しない。特に斑れい岩の有色鉱物量は多様であり、斜長岩に近いものの色指数はかなり低く優白質である。事実、深成岩の分類は基本的に無色鉱物の量比によって行われており、有色鉱物は使用されていない。本書でも、図3.16に「花崗岩質岩の分類」に用いられる三角図が載っているが、これは無色鉱物のみを使用して正しく分類がなされている。図3.11と図3.16を見た読者は、分類法についてかなり混乱するのではないだろうか。火成岩の分類に関する問題点は本書だけに限ったものではないが、今後ぜひ検討していただきたい課題である。火成岩の分類における色指数の説明はわかりやすいかもしれないが、「わかりやすいこと」と「厳密で正しいこと」とは必ずしも同じではない。

冒頭に示したように、本書は第3版まで重ねられたロングセラーであるが、コンパクトの割には内容が濃く、また要点がよくまとめられており、入門的教科書にふさわしい好著といえる。読んでみると、ロングセラーになった理由がよくわかる。みなさんにもぜひ一読をお勧めしたい。

(高橋正樹)

### 地質学者ナウマン伝

矢島道子 著



朝日新聞出版, 2019年10月発行, 四六判並製, 380ページ, ISBN: 9784022630902, 定価: 1870円(税込)

『地質学者ナウマン伝』(矢島道子著)が発行された。まとめて読む時間は年末正月にしか取れないので、出版されてから時間が経ってしまったが一気に魅きこまれて読んだ。これほどまでにナウマンに関する記録を掘り起こしたものはこれまでにない。氏が記しているように25年に渡る追跡の大きな集大成である。

そもそも本書は前書きに個性がある。ナウマンにのめり込んだドキュメントタリー小説のような書き出しであり、それが一層読者を本書に引き込む。私も歴史好きなので、歴史、小説・人物ドキュメンタリーなどを多く読んできた。その結果、私は人間の歴史学は事件の因果律を詰める最後のところで、人間の「心の中」を自然科学的な意味で検証できないので「物語」の宿命を持つと考えている(2013木村孝著: 地質学の自然観: 東大出版会)。その意味で本書も司馬遼太郎や塩野七生の歴史人物描き出しに似ている。ただし資料の掘り起こしは群を抜いていることは間違いない。歴史人物ドキュメントとして評価できるであろう。

私は一昨年北海道に関しての拙書「揺れ動く大地-北海道とプレートテクトニクス」(2018宮坂省吾、亀田純と共著: 北海道新聞社)を記した際に黎明期の日本地質学に言及した。拙書で北海道の地質調査をリードしたライマンと対比しナウマンに関して記した。そこで、19世紀後半の列強間の確執を極めた世界情勢と日本の明治維新後の西南戦争をピークとする国内情勢の激変の中での明治新政府の富国殖産興業政策と科学技術教育振興政策と政府組織整備の確執、その中で日本の地

質学の成立とアメリカからのライマンとドイツからのナウマンという象徴的なお雇い外国人を捉えることの重要性を強調した。

矢島氏は、これまで多く語られているナウマンに対する酷評、特にその人格的評価に対して全面的反論を試みている。記された事件には私がこれまで知らなかった多くのもの、例えば学生との最初の本格的巡検旅行の時に起きたトラブルや最初の妻をめぐる決闘騒動と治外法権下の有罪裁判など、が含まれている。それらの事件が見えなかったのは私の勉強不足でもあるが、主に東京大学地質学教室の中で語り継がれてきたものだからなのかもしれない。東京大学以外の地質学界から見ると目に見えていたのは、専門的には原田ナウマン論争、そして一般には堀桂一郎氏が記した森嶋外とのやりとりくらいであろう。それらは地質学史の中にも記されてきた事柄である。矢島氏のナウマンの名誉回復のための追跡とも言える多大な努力には敬服するのみである。

私らは先の拙書で、最近、ナウマンの日本列島論を高く評価する論が多いことに対してあえて異論を記したのである。例えば後にナウマン原田論争と言われる議論の結果は、ナウマンが正しかったとする評価を見直した。ナウマンの中央構造線やフォッサマグナに関する成果への評価には何の異論もない。しかし、日本列島の成立を理解する上で西南日本が重要で、それを敷衍すれば日本の全てわかるとする西南日本中心日本列島観にあえて異を唱えたのである。このナウマンの視点が日本列島研究を牽引してきたことは事実である。しかし、このナウマン的日本列島観を北海道へ延長した途端、理解に行き詰まるのである。それに対して原田豊吉の日本列島観はナウマンとライマンの功績を等しく評価し、樺太山脈系（樺太・北海道・東北日本）と支那山脈系（西南日本）として、その接合としてフォッサマグナ地域を見ようとした独創が重要なのである。ナウマンの原田への、「名称を変え-解釈を変えただけ」という反批判は当たらないのである。原田の視点はより広いのである。この点に関して矢島氏はナウマンの意見に沿って、原田の功績として評価できるのは、ナウマンへの反論を試みたという意味で「日本人が日本の地質構造論を説いた、そのことに意義があっただけ」としている。この視点が長らく北海道の地質を含めて日本列島を論じられなかった日本の地質学の限界であったことは指摘しておきたい。

本書にも記されているが、原田の意見の背景に地球収縮論で有名なジュースがいたことは多くの地質学史で語られている。地球冷却収縮論は潰え去ったが、ジュースが高く評価され続けているのは地球収縮論ではなく側方圧縮による造山運動論である（例えば都城秋穂・安芸敬一編、岩波地球科学講座12、変動する地球III 造山運動1987）。鉛直上下運動で山脈形成を説明した20世紀前半の地向斜造山論にとってかわったプレート間衝突による造

山運動論の中で再評価されたのである。また、ナウマン・原田（ジュース）によるフォッサマグナの「対曲」論争は、房総沖のプレート三重会合点近傍の衝突とテクトニクスに絡んで、依然として最近内外から大いに異論が噴出している難問であり、ナウマンに軍配をあげて決着したとは未だとても言えないのである。

ナウマン原田論争から130年を経た最近の日本列島論は、表層の地質だけではなく、地球物理学的・地球化学的な観測を加えてより広域かつ緻密な時空間を対象としたダイナミクスとして発展し続けている。夢想的であったとも言えるナウマン原田論争の勝敗という地平を大きく超えて進んでいる。日本の地質学の出発点として、ライマン、ナウマン、原田らは大きな足跡を残したことは間違いない。原田が早逝せず、日本の地質学を牽引していたらと思うが、歴史に「もしも」はない。

研究者とは先人の成果のある種の否定の上に新たな発見を積み上げるという「ダメ出し」コミュニケーションをしなければならないという宿命を負った職種である。従って「人間とは何か、社会とは何か」という人文社会学的な修養を十分に積んでおかなければ容易にトラブルが起こる。大学改革の中で、姿が見えなくなった“教養教育”や文理融合教育の重要性が強調される理由もある。これは国境と時代を超えて共通である。日本地質学黎明期における論争やトラブルはそのような視点からも振り返り未来への教訓としなければならない。その意味においても本書は地質学を学ぶ者にとって読んでおくべき書である。

(木村 学)



「恋する小惑星」を応援しよう！

星 博幸 (社会貢献担当理事；愛知教育大学)

皆さん、「恋する小惑星」(こいするアステロイド；略して恋アス)で地質が題材の一部になっているのを知っていますか？

恋アスは『まんがタイムきららキャラット』(芳文社)に2017年3月号から連載中の漫画で、本年1月3日からテレビアニメも始まりました(AT-X, BS11, TOKYO MX, AbemaTVなど複数の放送局・配信サイトで視聴可)。高校の地学部を舞台に、小惑星を見つけたいという夢を持った主人公と、その周囲の地学系女子(ジオジョ)による青春物語(URL1)です。アニメは萌え系オタクの間でも話題のようですが、ここではそれについては触れません。アニメでは地質図、ハンマー、岩石(チャート、安山岩、泥岩、いわゆる鉢巻石、その他)、ルーベなど地質ネタも登場し、SNS上では一部の地質系研究者やマニアが喜びの雄叫びをあげています。ネット情報(URL2)によると、作者のQuro氏は高校時代に地学部に所属し、天文が好きとのこと。「恋アスをきっかけに地学に興味を持ってくださる方が増えたら」と述べています(URL2)。アニメには産総研地質調査総合センター(GSJ/AIST)や地質標本館、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、国土地理院(GSI)などが協力しています。

恋アスの何がすごいのか？それは、中高生や大学生、オタクなどを主な視聴層とする番組ではほぼ毎回、地球惑星科学ネタが登場することです。地質に限らず広く天文や気象など

の専門用語が中高生や大学生、オタクなどの耳に毎週届くのです！地質・地理界隈では「プラタモリ」が話題で、その人気は周知の通りです。本会も2017年度、地質学の社会への普及という業績に対して「プラタモリ」制作チーム(日本放送協会)に日本地質学会表彰を授与しました(URL3)。「プラタモリ」と同様に、恋アスは地球惑星科学の初歩的な内容を伝えてくれます。恋アスは若者に地球惑星科学ファンを増やしてくれるかもしれません。これはすばらしいことではありませんか！

皆さん、恋アスを応援しましょう！興味のある方は一度アニメをご覧ください。「KiraKira増刊号！」というミニアニメもYouTubeにアップされているので、気軽に試してみてください(ちなみに、この記事執筆している1月13日時点ではタイトル「岩石について」が視聴可)。漫画やアニメに抵抗を感じる方は無理に読んだり視聴したりすることはありませんが、周囲の若者が恋アスを話題にしている時は温かい目で見てください。

<引用>

URL1: <https://ja.wikipedia.org/wiki/恋する小惑星>

URL2: <https://www.mashiro-writer.com/interview-quro>

URL3: <http://www.geosociety.jp/outline/content0180.html#hyosyo>

地質標本館は  
「恋アス」を応援しています

森田澄人 (産総研 地質標本館 館長)

産総研・地質標本館は「恋する小惑星(アステロイド)」(略称：恋アス)の制作に協力しています。

取材依頼があった当初、どのような妖艶な世界が飛び込んできたかと、少し身構える思いでしたが、作者のQuroさんやアニメ制作に関わるスタッフの皆さんの、とても熱心で且つリアルさにこだわるその姿勢にたいへん感銘を受けました。

作品の中では、地学部の女子高校生たちがキラキラをテーマに、石や地層、星などの魅力を追求していく様子がユーモア満載で表現されています。かなり専門的な部分を含むところもありますので、専門家側から見た趣きも多分に感じられます。

本作品は、マンガ読者やアニメ視聴者に向けて、石や化石に触れる、または興味を持つ機会を増やしてくれていることは確かです。地質標本館の来館者にも恋アスをきっかけに遠方からお越し下さる方は少なくありません。地学部員たちの、純粋な気持ちをもって一生懸命に活動に取り組む姿はとても可愛らしく、それがこのような一般の方々にも動かしているのでしょうか。マンガとアニメを通して、これからも彼女たちを温かく見守っていきたくて考えています。

事務局からのお願い：会員情報に変更があった場合は、，，

3月・4月は、異動、卒業等で会員情報の登録内容にご変更が多く発生する時期です。自宅や勤務先等登録内容にご変更があった場合は、速やかに学会事務局までご連絡をお願い致します。また、学会ホームページ「会員ページ」にログイン(ID：会員番号)していただければ、ご自身で登録内容を更新することも可能です。ご協力をよろしくお願い致します。

問い合わせ：日本地質学会事務局 メール：main@geosociety.jp  
電話 03-5823-1150 FAX 03-5823-1156



# 「GSSPシンポジウム：国際層序の意味と意義」報告

正会員 石渡 明, 北里 洋, 天野一男  
齋藤 眞, 齋藤文紀, 岡田 誠  
羽田裕貴, 松岡 篤

このシンポジウムは日本地質学会の主催、産総研地質調査総合センターと日本古生物学会の共催で2019年11月23日（土）13:00-17:30に産総研つくば中央の共用講堂で行われた。当日は雨の中、約80人が参加した。GSSPとは、Global boundary Stratotype Section and Point（「国際境界模式層断面とポイント」）のことで、今話題のチバニアンは、地球全体の新生代第四紀の中期更新世／前期更新世境界のGSSPを、千葉県市原市田淵の養老川沿いの上総層群国本層の露頭に設定し、これまで名前がなかった中期更新世の時代を「チバニアン」と名づけるものであり、国際地質科学連合（IUGS）は2020年1月17日に釜山で開催された会議でチバニアンのGSSPを正式に決定した。なお、IUGSの地質年代表は、

[http://www.geosociety.jp/uploads/fckeditor//name/ChronostratChart\\_jp.pdf](http://www.geosociety.jp/uploads/fckeditor//name/ChronostratChart_jp.pdf)

<http://www.geosociety.jp/uploads/fckeditor//name/ChronostratChart.pdf>

にある（和文／英文、2019年5月版）。本シンポジウムのプログラムは次の通りである。

## 第1部 国際層序について

- 開会あいさつ 松田博貴（日本地質学会会長）  
北里 洋 国際層序とは（地質学の歴史と現在の国際的状況）  
天野一男 日本における国際層序への取り組み  
齋藤 眞 地質学に関する国際標準の国内への適用  
第2部 年代層序単元・地質年代単元とGSSP  
齋藤文紀 第四系のGSSPと細分：チバニアンや人新世  
岡田 誠 新たなGSSPの提案：「千葉セクション」  
羽田裕貴 千葉複合セクションから明らかになった地球環境変動  
松岡 篤 中生界のGSSPがなかなか決まらないのはなぜか  
総合討論 磯崎行雄（司会）  
閉会あいさつ 西 弘嗣（日本古生物学会会長）

●北里 洋はIUGSの財務理事を務めている。地質学は長大な時間の流れの中で地球の歴史を扱うユニークな自然科学である。IUGSは、100万人に及ぶ世界の地質学関係者を代表して、あらゆる分野の地質科学の振興と発展を促している。その一つとして地質時代の標準化がある。中期更新世の基底の境界を日本に置こうという提案に象徴される、地質時代の定義とその境界基準の策定が好例である。地球の歴史を読み解く際の基本である層序の編纂に欠かせない地層命名規約はIUGS傘下の国際層序学委員会が策定しているが、日本では1952年にそれに準拠した地層命名規約を作っている。これは世界で3番目のことであった。

●天野一男は、日本地質学会による訳本「国際層序ガイド」の出版と「日本地質学会地層命名の指針」の策定について報告するとともに、「第三紀問題」を取り上げた。第一紀（ほぼ古生代に相当）・第二紀（ほぼ中生代に相当）は100年以上前に抹消されたが、第三紀は1968年に英国で非公式名称とされ、1989年には米国でも非公式名称とされた。そして2009年に国際層序委員会が第三紀が正式に地質時代から抹消されたが、日本では「新第三紀」（Neogene）、「古第三紀」（Paleogene）という形で第三紀という名称が残っている。「新成紀・古成紀」、「新成紀・古成紀」という名称の提案もあったが、まだ採用されていない。

また「第四紀」については、2009年に下限が変更になり、鮮新世に含められていたGelasianを第四紀に含めるようになった。

●齋藤 眞は地質図に関する日本産業標準（JIS）であるJIS A0204とJIS A0205の2019年3月の改正について解説した。またこれらのJISが当初からISOや国際年代層序表などの国際基準に基づいて作成されてきた経緯についても述べた。これらJISは、公共事業等では強制標準として扱われるため、そういう方面に進む学生には知っておくべき事であることも述べられた。

●齋藤文紀によると、完新世／更新世境界はグリーンランドの水床コア（掘削試料）にGSSPが設定されたが、日本の福井県の水月湖の堆積物コアが副模式標本として採用された。これは「副」ではあるが、日本の地質層序がGSSPに採用された最初である。2018年に完新世の3期区分とその名称が決定され、下からGreenlandian, Northgrappian, Meghalayanになった。各期の開始年代は11.7, 8.2, 4.2千年前（ka）である。Meghalayanの基底は、インドの鍾乳洞の鍾乳石の中にGSSPが打たれた。この時期以後の寒冷化により世界中で多くの文明が消失し、日本で青森県の三内丸山遺跡の縄文時代集落が消滅したのもこの頃である。また、更に新しい地質時代として、西暦1950年頃を境界としてそれ以後を人新世（Anthropocene, または人類世）とする提案が準備されており、そのGSSPの候補地の1つとして日本の別府湾が検討されている。

（質問に答えて）チバニアンの1つ後の時代である後期更新世も、まだ時代名とGSSPが決まっていないが、国際的にこのGSSPの検討は動きが鈍く、（広域火山灰層が多くて有利な）日本からの提案も今のところない。

●岡田 誠はチバニアン提案グループの代表である。千葉セクションおよび周辺地層の平均堆積速度は2m / 1000年と速く、そのためGSSP申請に必要とされた海洋同位体ステージ20-18をカバーする5万年間の詳細な層序データを得るためには、1つの露頭では無理で、複数の近隣露頭を合わせた複合セクションにならざるを得ない。チバニアンの基底層準は房総半島の多くの地点に露出しているが、最も広範囲に露出しアクセスのよい場所が、養老川沿いの千葉セクションである。「チバニアン」の語は、ストレートな命名であるチバニアンでは日本語的に違和

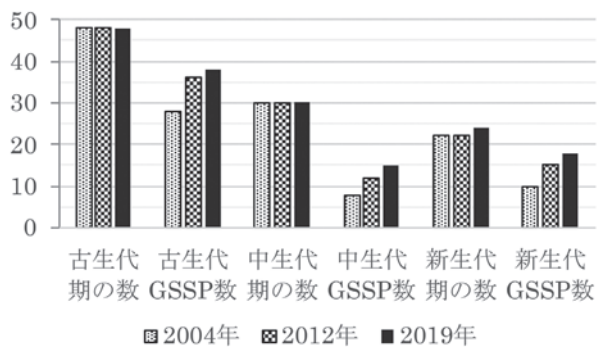


図1. 地質時代の期の数とGSSP数の変化（石渡原図）。各年のIUGSの地質年代表に基づく。中生代のGSSP設定率は古生代や新生代より低い。注：「期」がない「世」は1期と数え（シルル紀ブドリ世と2018年以前の完新世）、カンブリア・オールドビス紀の無名期も各々1期と数える。なお、2019年のGSSP数はチバニアンを含まない。

感があるため、二重形容詞格を用いたチバニアン<sup>1</sup>の名称で提案している。同様な語法を採用した地質時代名は他にないが、パナマ人をPanamanではなくPanamanianと呼ぶ例がある。

(質問に答えて) GSSPのゴールデン・スパイク(金釘)は肉眼的に明瞭な地層境界に打つことになっており、チバニアン<sup>1</sup>のスパイクは白尾火山灰層の基底に打つ予定である。逆から正への地磁気逆転境界はこの層準より数m上(露頭最上部)にある。

●羽田裕貴によると、チバニアン露頭の層準を含むMIS(酸素同位体ステージ)19は、過去100万年間で軌道要素の条件がMIS1(完新世～現在)に最も類似し、今後の気候変動の予測にMIS19の研究が重要である。MIS19では温暖期が約1万年で終了したので、既に温暖期が1年以上続くMIS1でも、人為的な影響がなければそろそろ寒冷化して氷期に入る可能性も考えられる。

●松岡 篤は国際ジュラ系層序小委員会のvoting memberを務めている。中生界のGSSP設定率は古生界や新生界より低く(図1)、ジュラ系/白亜系境界にもまだGSSPが設定されていない。国際白亜系層序小委員会のBerriasianワーキンググループは、白亜系の下限をヨーロッパから中米にかけての当時の低緯度海域に分布に限られるカルピオネラという浮遊性微化石のアクメ帯(注)の下限とすることを決定し、その基準をもちいてGSSPの候補としてフランス南部のセクションを推薦している。この取り扱いについての大きな問題は、カルピオネラが太平洋地域からは全く産出しないことと、アクメ帯(注)の下限とい

う化石帯境界が、どの程度に同時性を保持しているかがわからないことにある。さらに、白亜系の基底をBerriasianにするのかValanginianにするのかについても議論が続いている。中生界の各系のvoting memberは圧倒的に欧米の出身者が多く、アジア人は少ない。「国際」と言っても、欧米中心の議論になっており、GSSP設定に関して重要な意味をもつ国際会議は、ほとんどが欧米で開催されている。また、このような国際会議へのアジアからの出席者の数はきわめて少ない。

(注:定義にかかわる分類群が多産する層位範囲で規定される化石帯)

#### 総合討論

最後の総合討論では下記のような討論が行われた。

Q:チバニアン露頭を含む1/5万地質図「大多喜」は未刊行だが?

A(産総研):数年後の出版を目指して努力している。油田ガス田図等は刊行済みである。

Q:チバニアンは日本の地名なのだから、日本では「千葉期」と呼ぶべきではないか?

A(岡田):確かにその方が国内的に地質学への興味喚起を行う上でよいかもしれないが、地質学会では「チバニアン期」といった呼び方をすることを決めている。今後の議論が必要である。

第18回 地球惑星科学  
NYS若手合宿 参加報告

東京大学地球惑星科学専攻  
博士課程2年 多田 賢弘

2019年11月2日、3日に行われた第18回地球惑星科学NYS（ニューイヤースクール）若手合宿に参加しました。地球惑星科学NYS事務局は全国の若手研究者や学生によって運営されている団体で、2001年度からスクール形式や合宿形式の大規模なイベント（勉強会）を毎年開催しています。これらのイベントは、学生・若手研究者同士の交流の場や、幅広い知識・視野を得る場となっており、2010年度には「地球科学系の若手研究者の継続的育成活動」が評価され、日本地質学会表彰を受けています。以前は年始に開催されていたそうですが、今年度は学会などと重なり難い11月に、富士山を臨む山梨県山中湖畔のレイクロッジヤマナカにて合宿形式で開催されました。20名程度の学生・若手研究者が参加し、新進気鋭の若手有力研究者2名による講演や、参加者同士の研究交流会・懇親会、富士山科学研究所の見学・ミニ巡検が行われました（写真1）。1泊2日の短い期間でありながら、非常に濃く楽しい経験をする事ができました。その様子をご紹介します。

開催場所となったレイクロッジヤマナカは山中湖に面した宿泊施設・研修所で、キャンプ場も併設されており、3連休初日ということもあって多くの家族連れが富士山麓の澄んだ空気の中でキャンプを楽しむ、和やかな場所でした。1日目は宿泊施設2階のホールで参加者同士の研究交流会と、東京工業大学地球生命研究所黒川宏之博士による講演が行われました。

研究交流会は、5-6人ずつのグループに分かれて、各自の研究や、学部学科での演習、興味対象について一人5分の持ち時間でスライド等を用いて紹介するというものです。参加者の研究・興味の対象は、惑星形成論から水惑星学、隕石の物質科学的分析、野外地質、海洋地質、構造地質、古脊椎動物など多岐にわたっていて、多様な分野の研究に触れることができました。また、自分の研究を他分野の方に短い時間でわかりやすく伝えることの難しさを改めて痛感しました。会場ではポスターを掲示できると事前に聞いていたため、私は研究内容を紹介するポスターを持参しましたが、当日ポスターを掲示したのは私一人だけで、（幸運にも?）非常に目立っていました。

研究交流会に続いて、黒川宏之博士による「系外惑星系と太陽系」と題した講演が行われました。講演では「地球はどのように誕生したのか? 生命を育む惑星は地球以外に存在するの

か?」を大きなテーマとして、太陽系形成の標準シナリオから、その標準シナリオに修正を迫る系外惑星の発見やアルマ望遠鏡による原始惑星系円盤の観測、黒川さんらによる最新の研究成果まで、初学者にもわかりやすくお話ししてくださいました。講演テーマは多くの人が興味を持ってきた普遍的な問いであり、参加者からの質問も多く、なぜ太陽系には他の多くの惑星系にみられるようなホットジュピターやスーパーアースが存在しないのかなど議論が交わされました。

地球が宇宙の中心だと認識されていた17世紀以前から、太陽を回る惑星のうちの一つへ、さらにその太陽も天の川銀河に無数にある恒星の一つへと、時代とともに人類の認識における地球の立ち位置は「格下げ」されてきました。その一方で、近年4000個以上の系外惑星が観測されその統計的特徴が明らかになるにつれて、太陽系が他の多くの惑星系とは異なる特徴を持っている特殊な惑星系らしいと分かってきたことは大変興味深いと感じました。

講演の後は協賛のJ-DESC（日本地球掘削科学コンソーシアム）の紹介と、産業技術総合研究所の高下裕章博士によるIODP乗船体験紹介がありました。高下さんは乗船に至る経緯や船内での生活について微に入り細に渡り面白おかしく紹介してくださいました。「乗船で人生に対する価値観は大きく変わった」とのことで、私もいつか乗船してみたいと思われました。夜には懇親会が行われました。懇親会は食堂で行われる予定でしたが、庭で焚火ができるということで、庭へ繰り出し、星空の下、火を囲んでの穏やかな時間となりました。

2日目の午前には筑波大学田中康平博士による講演「恐竜の生態を探る!」が行われました。田中さんは恐竜類の繁殖方法に着目して、優れた繁殖術が大繁栄に導いた可能性を検討されています。例えば、現生鳥類には卵を温める方法と巣材との間に関連があるため、恐竜類についても巣化石中の堆積物に基づいて卵を温める方法を推定することができ、現生鳥類と同様に太陽光熱や地熱、植物の発酵熱を利用していたことが推定されています。また、乾燥に強い緻密な卵殻の構造から一部の種はオープンな巣を作り抱卵していた可能性があることや、幼体と成体の化石が共産することから一部の鳥盤類は子育てをしていた可能性があることなども分かり、非鳥類型恐竜の段階から様々な繁殖戦略が獲得されていたことが示唆されているそうです。今後の新たな発見によって恐竜類の生態がさらに明らかになっていくことを予感させるような、大変興奮させられる講演でした。

午後はバスで山梨県富士山科学研究所に移動し、館内展示の見学とミニ巡検が行われました。富士山科学研究所は富士山について、地質学、環境科学、生態学などの様々な側面から研究を進めている機関であり、一般向けの展示も充実しています。ミニ巡検では、研究所併設の自然観察路を歩きながら、所内の



写真1 (左). 富士山を背に集合写真 (提供: NYS事務局, 撮影: 三平舜)



写真2 (中). 富士山科学研究所自然観察路でのミニ巡検の様子 (提供: NYS事務局, 撮影: 三平舜)



写真3 (右). 参加者同士の交流の様子 (提供: NYS事務局, 撮影: 三平舜)

## 院生コーナー

植物の生態や、それぞれの生存戦略について、植物生態学者の中野隆志博士に解説していただきました(写真2)。

合宿を通じて、同年代の学生・若手研究者との交流(写真3)に加え、惑星形成論や絶滅した恐竜類の繁殖戦略、現生植物の生存戦略などを知り、太陽系の形成から地球生命史まで壮大な地球史に改めて思いを馳せることになりました。

進化古生物学者・科学史家のスティーブン・ジェイ・グールド(1941 - 2002)は、ダーウィンが自然淘汰による進化論を提唱した背景には、有名なビーグル号の航海に加えて、当時の社会科学、経済学、統計学(とりわけ、安定した調和のとれた社会は各個人の間の闘争によって現出する)としたアダム・スミスの自由放任主義経済学)など彼の専門とはかけ離れた分野からの類推があったことを指摘し、そういった創造性には「興味の広さとさまざまな分野間で実り豊かな類似性を構想する能力」(「パンダの親指」櫻町翠軒訳、早川書房、1986)が必要だと述

べました。地球惑星科学は分野の幅の広さが大きな特徴だと私は考えています。たまには、こういった催しに参加して様々な分野の研究に触れ、興味・知識の幅を広げるのも良いのではないのでしょうか。

最後に、講演会講師の方々、企画・運営して下さったNYS事務局の皆様、合宿へお誘い下さった鈴木克明さん、写真を提供して下さった三平舜さんに深く感謝申し上げます。

常時投稿をお待ちしています。院生コーナーの編集は現在以下の4名で行っています。原稿は5000字以内、図・写真3点以内を目安に、e-mailでいただければ幸いです。

manto.yamada@gmail.com

山田真嵩(北大)

716o.nonn@gmail.com

大山 望(九州大)

a.sakuma@eps.s.u-tokyo.ac.jp

佐久間杏樹(東京大学)

dkuwano@chiba-u.jp

桑野太輔(千葉大学)

## 支部コーナー

### ☆関東支部

#### お知らせ

### 2020年度総会・地質技術伝承講演会開催のお知らせ

関東支部では、下記のように支部総会及び地質技術伝承講演会を開催いたします。

日時：2020年4月11日(土) 14:00~16:45

場所：北とびあ 第2研修室(東京都北区王子1-11-1)

JR京浜東北線王子駅徒歩2分、東京メトロ南北線王子駅直結

プログラム：

13:30受付開始

14:00~15:40地質技術伝承講演会

15:50~16:45関東支部総会

- 1) 支部功労賞授与式
- 2) 関東支部幹事選挙(選挙の場合)
- 3) 2019年度 活動報告・会計報告
- 4) 2020年度 活動方針・予算報告

17:15~ 懇親会(予定)会費等当日受付

### 地質技術伝承講演会

参加費：無料、どなたでも参加できます。CPD単位取得可能(1.5)

申し込み方法：メールまたは学会へのFAX

1) 関東支部幹事 加藤 潔(駒澤大学 kiyoshi.katoh@gmail.com)

2) 日本地質学会関東支部気付 関東支部 FAX:03-5823-1156

演題講師は現在調整中です。決まり次第geo-Flashおよび関東支部MLにてご連絡します。

### 関東支部総会

関東支部会員の方で総会に欠席される方は委任状をお願いします。

委任状送付方法：

○郵送またはFAXの場合は下記にお送りください。

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F

日本地質学会事務局気付 関東支部事務局

FAX:03-5823-1156

○E-mail送付の場合

関東支部のメールアドレス(kanto@geosociety.jp)へ委任状をご返信下さい

メールによる委任状の締切は4月10日(金)18:00までです。

### <関東支部総会委任状>

2020年4月11日(土)開催の日本地質学会関東支部総会に出席できませんので、当日一切の議決権を

君(又は、議長)に委任します(空欄の場合は議長とします)。

2020年 月 日

住所：

会員氏名：

## 学部学生・院生（研究生）の方へ「割引会費申請」について

### 2020年度（2020. 4～2021. 3）学部学生割引・院生割引会費の受付中

一般社団法人日本地質学会運営規則により、学部学生・院生（研究生）については、本人の申請によりそれぞれ割引会費が適用されます。該当される会員は下記の書式にて申請書を提出してください（郵送に限る）。

#### ★注意★

毎年更新となりますので、次年度会費について該当する方は、必ず申請してください。  
2020年度から社会人になるかたは、割引会費の申請はできません。

送付先：〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6階  
一般社団法人日本地質学会

### 2020年度一般社団法人日本地質学会 学部学生割引・院生割引会費申請書

一般社団法人日本地質学会 御中

私は、運営規則第2章第7条第1項（1）に基づき、2020年度会費の

**学部学生割引 ・ 院生割引**（いずれかに○）

を申請いたします。

申請日 年 月 日

会員番号：

会員氏名：

現在の所属・学年：

大学	学部	学科	年在学中
大学大学院		研究科 専攻	前期 ・ 後期 年在学中

2020年4月からの所属：（現在の所属と同じ場合には「同上」でも可）

大学・大学院名

学部学科・研究科専攻名

上記、本学の学生につき、学部生・定取のない院生（研究生）であることを証明いたします。

指導教員（等）

所属：

氏名：

印

最終締切

**2020年3月31日（火）**



## 島津光夫先生の急逝を悼む

昨年11月25日夜、にわかには信じがたい「島津先生がお亡くなりになった」という突然の訃報が関係者に衝撃を与えた。享年93歳、晩年まで全く衰えを感じさせない、気力あふれた先生を思いおこすとき、あらためて、先生の暖かい人となり胸に迫る。先生への追悼は、本来、何らかの関わりをお持ちの方々、それぞれが先生との関わりを思い起こし、悼むとともに、その志を受け継ぐ思いを新たにしていければ良いと思うのだが、ここに、私の先生との思い出の一端を書き留め、皆さんが先生を思い起こす一助ともなることを願って一文をしたためます。

まずは簡単な御略歴です。

1926年1月、岩手県山目村赤萩（現一関市）にお生まれになり、一関中学校から海軍兵学校をへて、終戦を迎えられた。1948年4月東北大学理学部岩鉱教室入学、51年大学院進学の後、54年5月に理学部助手、56年12月地質調査所技官を経て、1964年6月、新潟地震による被災直後に理学部助教授として新潟大学に着任され、70年には教授とられた。91年に退職されるまで、理学部長、大学評議員、学長事務代行、自然科学研究科長を歴任し、大学運営に携わられるとともに、多くの学生・院生の教育・指導に当たられた。その間、岩鉱学会や石油技術協会の評議員や理事、地質県連委員を務められ、88年から1年間岩鉱学会会長も務められるなど、学会活動にも多大な貢献をなされた。先生は83年に理学部長に選任された翌年から、自然系3学部の念願であった博士課程大学院の設立の責任者として、学内でのとりまとめとともに、文科省への陳情・折衝に心を砕かれた。自然科学研究科は86年によりやく設立されたのである。

新潟大学在任中の先生の主な研究テーマは、フォッサマグナから東北日本の火成岩類の研究で、特に南部フォッサマグナや新潟―福島地域の東北日本を中心としたグリーンタフ研究であった。低度変成作用から熱水変質作用を受けた変質岩を対象に、綿密な地質調査をもとに変成・変質分帯を試み各地の変質作用の原因を追及された。それらの成果は、油ガス田の探鉱開発にも活用され、特に、新潟県南長岡および片貝油ガス田の貯留岩が、変質した酸性岩であることを明らかにするとともに、先生が提案された火山岩類のタイプ分けは現在に至るまで石油技術者に引き継がれている。また、岩石学の機器分析の進歩とともに、変質岩の地球化学的性質を用いた島弧マグマの成因とテクトニクスとの関連について、いち早く取り組んでこられた。新潟大学の定年退職の年には、その集大成として「グリーンタ

フの岩石学（1991 共立出版）」をまとめられた。

新潟大学退職後、請われて、新潟県立女子短期大学の学長となられ、2期6年の任期中に国際教養学科と生活福祉専攻の設立に尽力された。

97年に短大を退かれた後、先生の新たな挑戦が始まる。「牧之と歩く秋山郷―越後・信州の大自然」（1997年、高志出版）を皮切りに「日本の山と海岸」（2018年、築地書館）に至る、実に16冊に上る一般向けの書を次々に執筆・刊行されてきたのである。執筆に際しては、綿密な調査記録を基本としながら、必要に応じての取材なども折り込み、多分野にわたる旺盛なご執筆であった。お亡くなりになられた時も新たな書をご執筆のさなかで、執筆途上の遺稿は先生のパソコンに保存されていると伺っている。一方で、2003年から新潟県の新津丘陵にある「石油の世界館」の友の会顧問をお引き受けになり、幹事会はもとより、市民講演会や見学会などの企画・運営に尽力されてきた。

私自身は1979年に新潟大学理学部に助手と採用されて以来、先生には公私ともに実に様々な面でお世話になったが、今に至るまで、そのご恩に報いているかということ、忸怩たる思いである。新潟大学の地質鉱物学科に着任した以上、まず、新潟県内の野外地質調査を行うべしということで、79年、芽吹き時の西頸城地域をご案内頂き、初めて難波山層を見せて頂いた。以降、3年生の進級論文の野外指導はもとより、卒論や修論の調査研究、地質調査所の5万分の1地質図幅（長岡、苗場山）の補充調査、五十嵐川、志久見川などの火山岩地域での団体研究、さらには南部フォッサマグナ地域の深成・火成活動に関するシンポジウムや巡検などにもお連れ頂いた。新潟大を退職された翌92年8月には、第29回国際地質学会を京都で開催したが、その際、石油資源開発、帝石の皆さんとともに佐渡を含む新潟の新生代層、特に石油地質に関する地質見学の案内を先生とご一緒した。

海外での地質見学や調査にも何度かご同行頂いた。1987年、韓国ソウルで開かれた太平洋学術会議後の南東部の浦項（ポハン）から東海岸を北上するコースの巡検をご一緒した。先生は日本海形成との関わりで、浦項周辺の火成岩類や構造に強い興味をもたれ、翌年にも浦項と一緒に訪れ、釜山大学のユン・スン（尹鎭）教授の案内で火山岩類の産状を見学し、試料を採取した。その年代と産状、岩石学的特徴をもとに、90年には日本海形成に関わるSado-Pohan Beltを提唱された（Tectonophysics, v. 181, 321-330）。1994年の夏には、ブラジルのレシフェで開かれた第14回国際堆積学会にご一緒した。この時は、ブラジル、アルゼンチン、チリ三カ国を巡った。この時の旅行の様子は2013年に私家版として出版された「私の88年」に詳しい。

先生は何より、人に接するに誠実で、面倒見が大変良い、先生の下を巣立った人は各地・各分野で活躍されているが、いずれにおいても、先生が見えたということ、歓待し、それに対して、先生は心からお礼を言われる。この点では、「君は礼を知らない」と先生から厳しく指摘されたことがある。面倒見が良いと言うことは少し違うが、先生は、実に多くの卒論・修論の成果を共著の論文として素早く仕上げおられる。Nkysdb：共著関連データベースを見ると、先生との共著者名がずらっと並ぶ。

退職後の著作を読んでつくづく思うことは、先生は本当にまめに記録を取っておられる。これは、退官時に退官記念会から出された「長い道のり―私の65年―」でも感じたが、2013年の「本つくり15年」、2014年の「私の88年」で、よくここまでと思った次第である。

改めて、先生のご冥福を心からお祈りするとともに、教えを受け継ぎ、平和な社会の下で地質学の一層の発展に精進したいと思う。安らかに眠りください。

（立石雅昭）

# 入会のご案内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください。

入会には正会員1名の紹介が必要です。近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください。また、初年度の会費は申込書郵送時から時間の間隔をおかず下記送金先へ速やかにご送金ください。会員としての正式登録は、入会承認後、初年度会費の入金を確認した上でを行い、雑誌の送付(4月号から)を開始いたします。

申込書送付先: 101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F 一般社団法人日本地質学会

送金先: 郵便振替口座 00140-8-28067 一般社団法人日本地質学会

ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ)店/当座 0028067 / 一般社団法人日本地質学会 シヤ)ホソチツツツカイ

会費(※1)年額: 正会員 12,000円 (学部学生割引\*5,000円, 院生割引\*8,000円【定収のない方に限る】) ※2)

※1: 学会費には地質学雑誌の購読料が含まれています。

※2: 学部学生割引, 院生割引を希望される方は、下記の割引申請欄に指導教員の署名, 捺印をもらってください。

## 一般社団法人日本地質学会入会申込書

Application form for the Geological Society of Japan

太枠内のみにご記入ください(\* Official use only)

*会員番号		*会員種別 <input type="checkbox"/> 正会員 ( <input type="checkbox"/> 学部学生割引 ・ <input type="checkbox"/> 院生割引)	
氏名(ふりがな) Name in Japanese		ローマ字表記 family name	first name
____年Year ____月Mo ____日Day 生born on		Sex: <input type="checkbox"/> 男 Male <input type="checkbox"/> 女 Female Country:	
学歴 Academic career:			
____学校 High school ____年卒業 Year completed			
____大学 University ____学部 Faculty ____年 ____月 卒業(見込み)Year completed			
修士 Master: ____大学Univ. ____研究科Fac. ____年 ____月 修了(見込み)Year completed			
博士 Doctor: ____大学Univ. ____研究科Fac. ____年 ____月 修了(見込み)Year completed			
自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code - )			
電話 Phone:		ファックス Fax:	
所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code - )			
※ 郵便物がきちんと届けられるよう、ご記入ください。			
電話 Phone:		ファックス Fax:	
e-mail Address: @			
※e-mail Addressは地質学会からのメルマガ配信用, その他連絡用に登録します。携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録いたしません。ご注意ください。			
※所属先(代表)の問い合わせ専用 e-mail Address は記入しないでください。			
連絡先 Correspondence: <input type="checkbox"/> 自宅 Home <input type="checkbox"/> 所属機関 Office			
会員名簿の掲載項目: 2年に1度, 会員名簿を発行しています。氏名・所属先は掲載必須項目です。下記の項目について掲載を拒否する項目には <input type="checkbox"/> にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします)。			
<input type="checkbox"/> 最終学歴 <input type="checkbox"/> 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」, 「△△△△社」までを必須項目として掲載)			
<input type="checkbox"/> 所属先住所 <input type="checkbox"/> 所属先電話・FAX番号 <input type="checkbox"/> 自宅住所 <input type="checkbox"/> 自宅電話・FAX番号 <input type="checkbox"/> e-mail Address			
紹介者名(正・院生会員)		印	
Recommended by (name of member)		Signature	
学部学生割引・院生割引申請欄: 運営規則に基づき, 学会費の割引申請をいたします。			
上記本学の学生につき, <input type="checkbox"/> 学部学生 ・ <input type="checkbox"/> 定収のない院生(研究生) [いずれかにチェックをつけてください] であることを証明いたします。			
指導教員 所属:		氏名: 印	
専門部会: 現在, 下記の15の専門部会があり活動しています。専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします。所属希望の部会を3つまで選択することができます。(該当する項目に〇印を付けて下さい)			
1. 地域地質 2. 層序 3. 堆積地質 4. 現行地質過程 5. 海洋地質 6. 構造地質 7. 岩石 8. 火山 9. 応用地質 10. 環境地質 11. 情報地質 12. 古生物 13. 第四紀地質 14. 環境変動史 15. 鉱物資源			
興味専門分野: あなたの興味専門分野を教えてください。3つまで選択することができます。(該当する項目に〇印を付けて下さい)			
1. 層位 2. 堆積・堆積岩 3. 古生物 4. 構造地質 5. 火山・火山岩 6. 深成岩 7. 変成岩 8. 鉱床地質(金属・非金属) 9. 鉱床 10. 鉱物 11. 燃料地質 12. 地熱 13. 第四紀 14. 環境地質 15. 都市地質 16. 土木地質 17. 土質工学 18. 水文地質 19. 探査地質 20. 土木工学 21. 情報地質 22. 地震地質 23. 海洋地質 24. 地球物理 25. 地球化学 26. 地質年代学 27. 地理 28. 地学教育 29. 考古学 30. その他 40. 地球惑星			
*受付( ____年 ____月 ____日)		*入金( ____年 ____月 ____日) 振替・現金・銀行・他	
*承認( ____年 ____月 ____日)		*送本( ____巻 ____号)	



# 預金口座振替依頼書 自動払込利用申込書(収加)

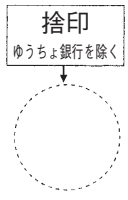
私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日	6日・23日 (金融機関休業日の場合は翌営業日)
--------	--------------------	-----	--------------------------

(フリガナ) 申込人名	申込人住所	〒
----------------	-------	---

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

ゆうちょ銀行以外の銀行	金融機関コード	支店コード	預金種目 (どちらかに○印)	口座番号 (右詰めでご記入ください。)
	銀行組合 信用組合	本店支店 出張所	1. 普通 2. 当座	
(フリガナ) 口座名義人	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。			金融機関 お届け印



金融機関へのお届け印ですか  
ご注意!

(フリガナ) 口座名義人	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。			ゆうちょ銀行 お届け印
種目コード	契約種別コード	通帳記号	通帳番号(右詰めでご記入ください。)	
166	301	0		

払込先口座番号	00110-5-58830	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社
---------	---------------	---------	--------------------

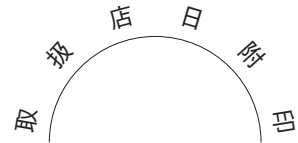
### (収納企業使用欄)

収納企業名	一般社団法人 日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード 18476000	顧客コード	000000

- 一預金口座振替規定一 ※ゆうちょ銀行払いは除く。
- 銀行(金庫・組合)に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
  - 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額(当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。)をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
  - この契約を解約するときは、私から銀行(金庫・組合)に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行(金庫・組合)はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
  - この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行(金庫・組合)の責めによる場合を除き、銀行(金庫・組合)には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄	(不備返却事由)		
	1. 預金(貯金)取引なし	3. 印鑑相違	
	2. 記載事項等相違 店名、預金種目、口座番号、 通帳記号、通帳番号、口座名義	4. その他( )	
備考	検印	印鑑照合	受付印



(金融機関へお願い)  
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

(不備返却先)  
SMBCファイナンスサービス(株)決済ビジネス事務部  
〒108-6350 東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

◎書類の流れ お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

101-0032

東京都千代田区岩本町

二丁目八十一番五 井桁ビル内

一般社団法人日本地質学会

御中

84円  
切手付  
貼

裏面のりしろ③

氏名

住所

のりしろ③

のりしろ①

のりしろ②

線

線

オリ線

オリ線

# CALENDAR

2020.2~

地球科学分野に関する研究会、学会、国際会議、などの開催日、会合名、開催学会、開催場所をご案内致します。会員の皆様の情報をお待ちしています。

★印は学会主催、(共)共催、(後)後援、(協)協賛。

## 2020年

### 2月 February

#### ○第197回深田研談話会

2月7日(金) 18:00~19:30

場所: 深田地質研究所 研修ホール(東京都文京区)

講師: 石川孝織氏(釧路市立博物館学芸専門員)

演題: 炭鉱と鉄道—釧路炭田を中心に—  
参加費無料, 70名(先着) \*要事前申込

<https://www.fgi.or.jp/>

#### ★関東支部ミニ巡検「大磯丘陵北東部のテフラ」

2月16日(日)

<http://www.geosociety.jp/outline/content0201.html>

#### (後) 海洋研究開発機構海域地震火山部門講演会

「もっと知ろう、おもしろ海の火山学」

2月23日(日・祝) 13:00~15:40

会場: 国立科学博物館日本館(東京都台東区上野公園)

参加費無料, 事前登録制(締切ました)

<http://www.jamstec.go.jp/rimg/j/sympo/img2019/>

#### ○第231回 地質汚染・災害イブニングセミナー

2月28日(金) 18:30~20:30

場所: 北とびあ803会議室(東京都北区王子)

講師: 國生剛治(中央大学名誉教授)

演題: 「最近の地震被害から見た液状化現象の実像」

会費: 会員500円, 非会員1,000円

<http://www.npo-geopol.or.jp/event.htm>

#### ★西日本支部令和元年度総会・第171回例会

2月29日(土) 例会・総会

場所: 北九州市立自然史・歴史博物館 いのちのたび博物館

講演申込・参加申込: 2月14日(金) 締切

<http://www.geosociety.jp/outline/content0025.html>

### 3月 March

#### ○核—マントルの相互作用と共進化:

#### 統合的地球深部科学の創成

令和元年度成果発表会

3月2日(月)~5日(木)

場所: ホテルメルパルク松山別館3階ラフィオーネ  
<http://core-mantle.jp>

#### ○第36回万国地質学会議

3月2日(月)~8日(日)

場所: インド・デリー

<https://www.36igc.org/>

#### ○日本地学オリンピック とっぷ・レクチャー

3月15日(日) 13:00~17:00

場所: 筑波銀行本部ビル10階大会議室

参加無料・先着150名\*聴講者募集\*

<http://jeso.jp/event/lecture/2020/index.html>

#### ○第54回日本水環境学会年会

3月16日(月)~18日(水)

会場: 岩手大学上田キャンパス

<http://jswe.or.jp/event/lectures/index.html>

#### ○第9回防災学術連携シンポジウム

「低頻度巨大災害を考える」

3月18日(水) 12:30~17:30

場所: 日本学術会議講堂(東京都港区六本木)

#### ○第232回地質汚染・災害イブニングセミナー

3月27日(金) 18:30~20:30

場所: 北とびあ807会議室(東京都北区王子)

講師: 藤川典久(気象庁地球環境・海洋部気候情報課長)

演題: 「水トピック 日本の降水量~これまでの変化と今後の見通しを中心に~」

会費: 会員500円, 非会員1,000円

<http://www.npo-geopol.or.jp/event.htm>

#### ○日本堆積学会2020年島根大会

3月28日(土)~30日(月)

会場: 島根大学松江キャンパス 教養教育棟2号館

<http://sediment.jp/>

### 4月 April

#### ○第233回地質汚染・災害イブニングセミナー

4月24日(金) 18:30~20:30

場所: 北とびあ808会議室(東京都北区王子)

講師: 西口 学(国土交通省水資源部水資源政策課長)

演題: 「国の水資源政策と水循環基本法」

会費: 会員500円, 非会員1,000円

<http://www.npo-geopol.or.jp/event.htm>

#### ○第19回重金属類・残土石処分地・廃棄物処分地診断に関わる地質汚染調査浄化技術研修会

4月29日(水・祝)~5月2日(土)(部分受講可)

主催: NPO法人 日本地質汚染審査機構

会場: 日本地質汚染審査機構関東ベースン実習センター(千葉県香取市)

会費: 会員50,000円, 非会員60,000円, 学生: 15,000円

<http://www.npo-geopol.or.jp/sympo.htm>

### 5月 May

#### ○JpGU2020年大会

5月24日(日)~28日(木)

会場: 幕張メッセ(千葉市美浜区)

[http://www.jpgu.org/meeting\\_j2020/](http://www.jpgu.org/meeting_j2020/)

### 6月 June

#### ○地質学史懇話会

6月20日(土) 13:30~17:00

場所: 北とびあ805会議室(東京都北区王子)

矢島道子: 「地質学者ナウマン伝」を上梓して  
加藤碩一: 日本列島成立史あれこれ

### 8月 August

#### (後) 科学教育研究協議会第68回全国大会(福島大会)

8月1日(土)~3日(月)

場所: 伊達市立霊山中学校(福島県伊達市)

<https://kakyokyo.org/>

#### ○国際 Gondwana 研究連合 (IAGR) 2020年総会及び第17回 Gondwana からアジア国際シンポジウム

8月30日(日)~9月7日(月)

開催場所: ノボシビルスク(ロシア)

発表要旨締切: 4月30日

[www.gondwanainst.org/](http://www.gondwanainst.org/)

### 9月 September

#### ○第19回国際物質組織学会議(ICOTOM19)

9月6日(日)~11日(金)

場所: 大阪府立大学

<http://icotom19.com/>

#### ★日本地質学会第127年学術大会

9月9日(水)~11日(金)

会場: 名古屋大学東山キャンパス

# 地球の過去、現在、そして未来

# 地質と語る

5月10日を  
中心にイベント開催

各地域のイベント  
情報はこちらから



<https://www.gsj.jp/geologyday/>

## 地質の日の由来

5月10日は、明治9年(1876)、ライマンらによって日本で初めて広域的な地質図、200万分の1「日本蝦夷地質要略図」が作成された日です。

また、明治11年(1878)のこの日は、地質の調査を扱う組織(内務省地理局地質課)が定められた日でもあります。

富士火山地質図(第2版)2016年発行



地質の日事業推進委員会事務局

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター  
TEL: 029-861-3540 FAX: 029-856-4989

地質の日事業推進委員会: (一社)日本地質学会、(一社)日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、(国研)産総研地質調査総合センター、日本堆積学会、日本第四紀学会、(一社)日本鉱物科学会、日本科学未来館、(地独)道総研地質研究所、神奈川県立生命の星・地球博物館、(一社)全国地質調査業協会連合会、(公社)東京地学協会、(独)国立科学博物館、全国科学博物館協議会、(NPO)日本ジオパークネットワーク(期不詳:2020年1月現在)